オーディオ実験室収載

# STAGE+を楽しむ(216)(HP 収載)
# ―ブルックナーの交響曲第 6 番―

## １．始めに

前報(215)に引き続き、STAGE+のティーラのブルックナーの交響曲第 6 番の演奏の試聴を実施します。

## ２．試聴音源

今回は、STAGE+のティーラのブルックナーの交響曲第 6 の演奏を選びました。

ミルガ・グラジニーテ=ティーラがブルックナーの交響曲第 6 番を指揮

収録配信

フランス放送フィルハーモニー管弦楽団

再配信 2024 年 12 月 15 日 10:00

再配信 2024 年 12 月 15 日 20:00

リトアニア出身のミルガ・グラジニーテ=ティーラはいま最も注目すべき指揮者の一人です。若干 29 歳でバーミンガム市響の音楽監督に就任したことは大きな話題となりました。現在は世界を飛び回る日々ですが、本映像ではフランス放送フィルハーモニー管弦楽団との意欲的なプログラムをお楽しみいただけます。ブルックナーの交響曲第 6 番を中心に、リリ・ブーランジェやブルックナーの詩篇、ロシアの現代作曲家グラツィニスの声楽曲を組み合わせたことで、非常に清らかで透明感の響きに包まれた世界観をお楽しみいただけます。

ソリスト:

メアリー・エリザベス・ウィリアムズ（ソプラノ）

演奏:

フランス放送合唱団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団

指揮:

ミルガ・グラジニーテ=ティーラ

曲目:

リリ・ブーランジェ　詩篇第 24 番

　フランス放送合唱団(合唱)

　フランス放送フィルハーモニー管弦楽団(オーケストラ)

ロマルダス・グラツィニス　《スタルティネス》

　フランス放送合唱団(合唱)

アントン・ブルックナー　詩篇第 150 番 WAB 38

　メアリー・エリザベス・ウィリアムズ(ソプラノ)
　フランス放送合唱団(合唱)
　フランス放送フィルハーモニー管弦楽団(オーケストラ)
アントン・ブルックナー　交響曲第6番イ長調 WAB 106
　フランス放送フィルハーモニー管弦楽団?(オーケストラ)

３．試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続しています。

今年はブルックナー生誕 200 年ということでブルックナーのプログラムが数多く演奏されてきましたが、今回の交響曲第 6 番もその一つです。

ブーランジェの詩篇第 24 番、グラツィニスの《スタルティネス》とブルックナーの詩篇第 150 番 WAB 38 は、ウィリアムズのソプラノやフランス放送合唱団の合唱の演奏です。

詩篇第 24 番はオーケストラと合唱、《スタルティネス》は合唱のみ、詩篇第 150 番はオーケストラと合唱にソプラノが加わります。

詩篇というのは旧約聖書の収められた神への賛美の言葉で 150 番まであり、今回は 38 番と 150 番が該当し、宗教曲です。《スタルティネス》は作曲家がステージに上りましたので現代の曲です。

ティーラは若い女性指揮者ですが、詩篇第 150 番のような編成の大きい大曲をきびきびとリードしています。

ブルックナーの交響曲第 6 番はお馴染みの曲ですが、詩篇第 150 番同様、ティーラの指揮の下、複雑な構成の大曲をまとめあげています。

4．まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツや Crystal EpY-G も使用した結果、合唱の加わった大曲やブルックナーの交響曲のような構成の複雑な曲まで破綻なく聴けました。

以上